

# NETIS 活用効果調査表 作成手順 マニュアル

令和5年5月

近畿技術事務所

# NETIS 活用効果調査表 作成手順 マニュアル

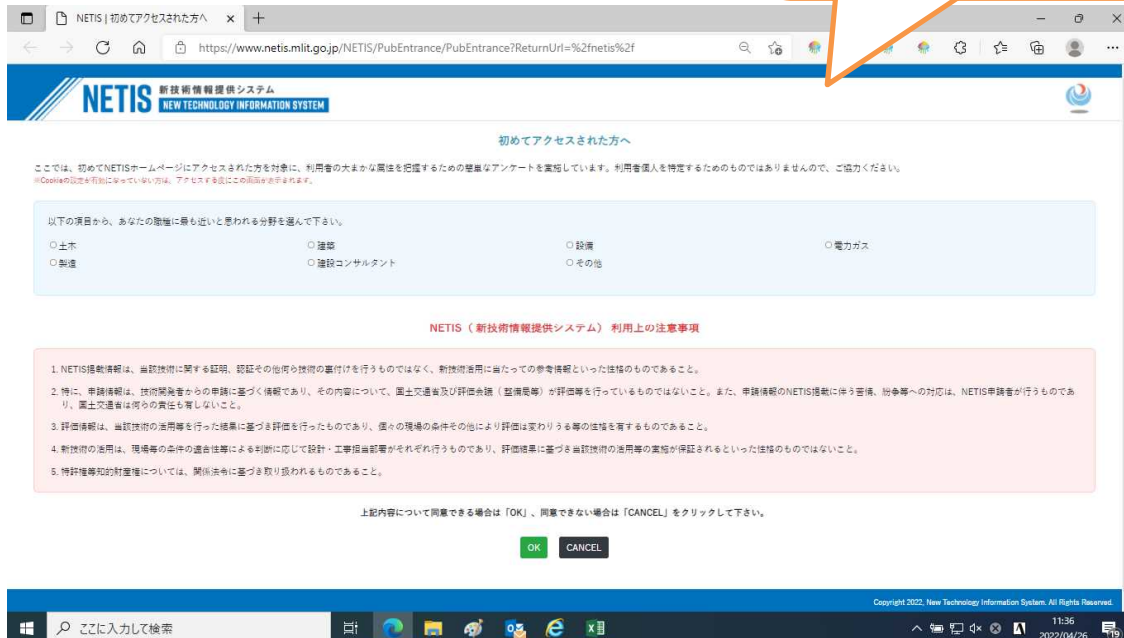
## 令和4年4月よりオンラインで作成・提出

- 「新技術活用計画書・実施報告書」および「活用効果調査表」は令和4年4月よりNETIS(新技術情報提供システム)のHPにてオンラインで作成・提出となりました。

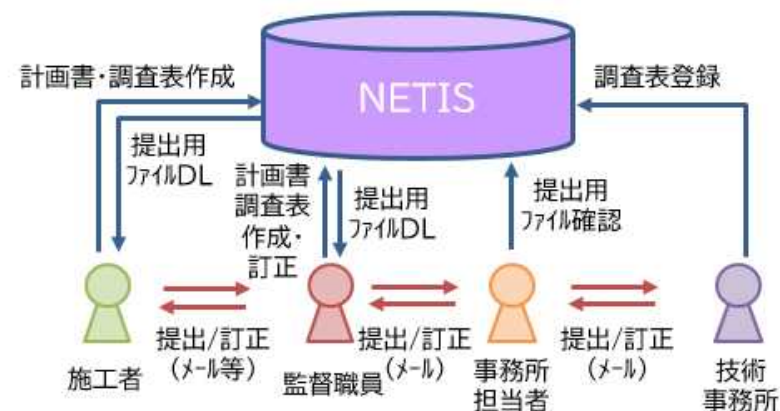
<https://www.netis.mlit.go.jp/netis/>

※旧システム(R4年3月以前)で作成した活用効果調査表(zipファイル形式)の内容を確認・修正する場合は、本マニュアルP7を参照。

初めてNETISのHPにアクセスした場合、このような画面になります。あなたの該当職種をチェックし、注意事項を確認の上、同意に関する「OK」ボタンをクリックしてください。

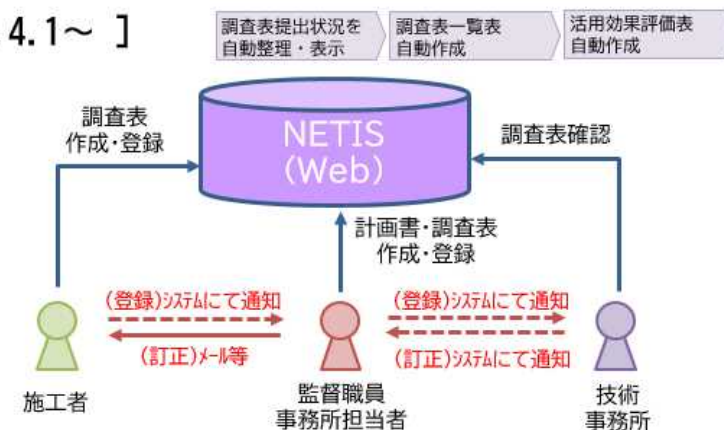


## 〔改良前〕



## 令和4年4月以降のオンライン化のイメージ

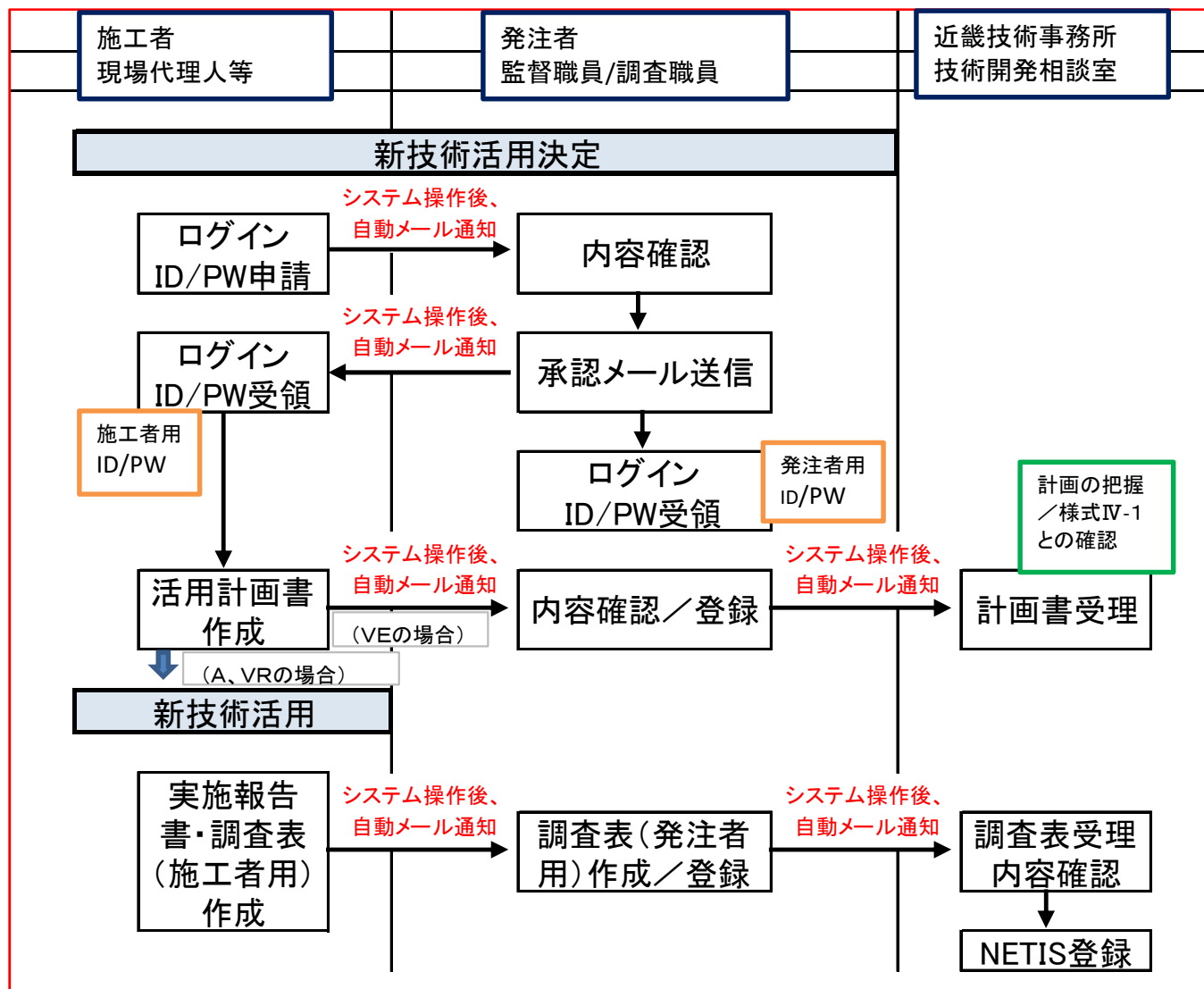
## 〔R4.4.1～〕



## 活用効果調査表の提出フロー

※ 活用効果調査表の構成は次項を参照。ここでは「新技術活用計画書」は計画書、「実施報告書」は報告書、「活用効果調査表(発注者用)(施工者用)」は調査表と呼びます。

【発注者指定型、発注者指定型(選択肢提示型)、施工者選定型】



- 手順の詳細はNETIS掲載の操作マニュアルを参照してください。
- 計画書・報告書や調査表はオンライン上で作成・内容確認・登録を行います。
- 作成等に当たってはログインID/PWの登録が必要となります。  
ログインID/PWは1工事ごとに登録となります。  
計画書、報告書、調査表の作成等では全て同じID/PWを使用します。紛失しないよう注意して下さい。
- 施工者が記入した内容に不備や誤記がある場合はメールや電話でやりとりしてください。
- 従来方式(令和4年3月末まで)で作成した調査表(zipファイル形式)の修正は可能です。(P7参照)
- A、VR技術で工事期間中に監督職員が変わった場合再作成が必要な場合があります。下記に問合せ下さい。

### お願い

活用効果調査表作成上の問合せや、作成後に活用を取り止める場合は下記に連絡をお願い致します。

●●●●● 近畿技術事務所 ●●●●●  
 技術開発相談室 田和(M755-487)  
 技術開発対策官 濱本(M755-302)  
 指導官 蚊口(M755-405)

# 活用効果調査表の構成

A、VR技術の場合は「新技術活用計画書」、「実施報告書」、「活用効果調査表(発注者用)」「活用効果調査表(施工者用)」で構成されます。VE技術の場合は「新技術活用計画書」のみです。  
**新技術活用前に「新技術活用計画書」を作成。活用後に「実施報告書」、「活用効果調査表」を作成してください。**

## 新技術活用前(VE A VR)

### ●計画書

- 発注者指定型 施工者が作成
- 施工者選定型 同上

## 新技術活用後(A VR)

### ●実施報告書

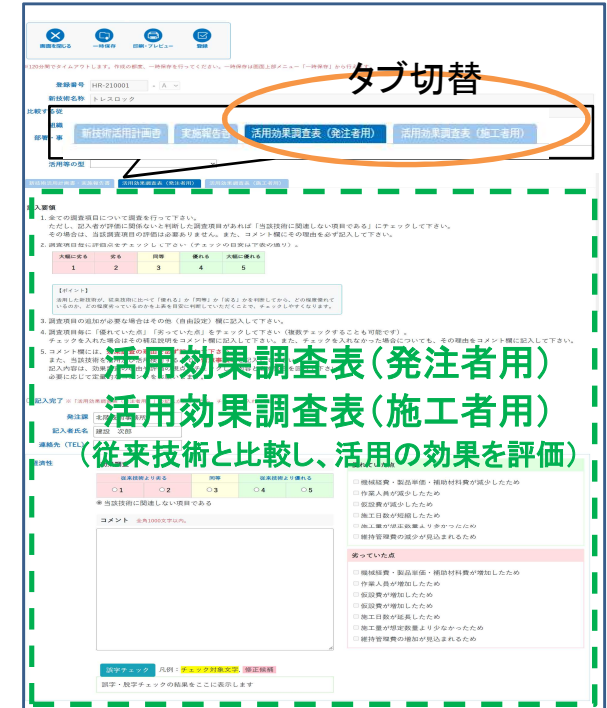
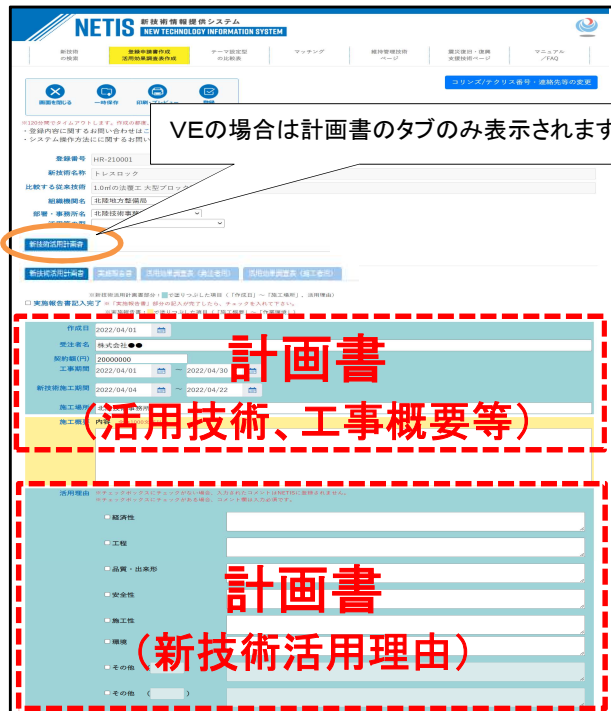
- 活用効果調査表(発注者用)
- 活用効果調査表(施工者用)

施工者が作成

発注者が作成

施工者が作成

※システム画面は、一部簡略化しています



## 注意事項(概要)

### ①新技術活用計画書

◎VE技術は計画書のみ作成します。(A、VR技術は計画書、報告書、調査表の作成が必要です。)

◎計画書は、活用する新技術活用が決定後、速やかに作成し、**必ず活用前までに登録**してください。



### ②実施報告書

◎報告書は、新技術活用後に作成してください。



### ③活用効果調査表(発注者用)および(施工者用)

◎新技術を活用後、速やかに作成し登録してください。(活用後、10日程度が目安)

◎活用当初において「-A」「-VR」であった技術が、活用中に「-VE」もしくは、掲載終了となった場合の取り扱いについては別冊資料(担当者会議「新技術活用促進に向けて」)を参照。

◎近畿技術事務所で受理後、調査表に不備があった場合は、主任監督員等を通じて修正をお願いする場合があります。



※記入欄は原則全て記入してください。

※記入完了後は必ず  記入完了  のチェックボックスにを入れ、い。



登録を押して下さい

※新技術の活用にあたっては、工事成績評定点の加点対象となります。  
(発注者指定型の場合を除く)

## 注意事項(活用効果調査表にエラーがあるときの画面と対応)

画面を閉じる
一時保存
印刷・プレビュー
登録 ②

コリンズ/テクリス番号・連絡先等の変更

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。

技術活用提案日: 2023/02/17

登録番号(技術活用提案日時点): CG-220009

新技術名称: コンクリートキャンパス工法

比較する従来技術: モルタル吹付け工(t=5cm)

組織機関名: 近畿地方整備局

部署・事務所名: 福井河川国道事務所

工事名: 嶺南地区橋梁補修他工事

活用等の型: 施工者選定型(契約後提案)

登録番号(最新): CG-220009

①記入完了にチェックし②登録ボタンをクリック時にエラーがある場合③メッセージが表示され、エラー箇所が赤色に反転(次ページ参照)しますので入力して再度②登録ボタンをクリックして下さい。

【注意】

複数箇所が赤色に反転しているケースもありますので最後までスクロールして確認して下さい。

③

正しく入力されていない内容があります。  
メッセージをご確認のうえ、再度ご入力ください。

**記入要領**

- 全ての調査項目について調査を行って下さい。  
ただし、記入者が評価に関係ないと判断した調査項目があれば「当該技術に関連しない項目である」にチェックして下さい。  
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。
- 調査項目毎に評価点をチェックして下さい(チェックの目安は下表の通り)。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

**【ポイント】**  
活用した新技術が、従来技術に比べて「優れる」が「同等」が「劣る」かを判断してから、どの程度優れているのか、どの程度劣っているのかを上表を目安に判断していただくことで、チェックしやすくなります。

- 調査項目の追加が必要な場合はその他(自由設定)欄に記入して下さい。
- 調査項目毎に「優っていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい(複数チェックすることも可能です)。  
チェックを入れた場合はその補足説明をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入れなかった場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
- コメント欄には、**効果調査の理由を必ず記入して下さい。**  
また、当該技術を活用及び活用検討する上での**留意事項等**を記入して下さい。  
記入内容は、効果調査の理由や評価の視点でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。  
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

① 記入完了 ※「活用効果調査表(発注者用)」の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる		
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	

◎当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内

【エラー】安全性のコメントを入力してください。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

優れていた点

- 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- 重機災害の危険性が減少したため
- 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため
- 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

- 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- 重機災害の危険性が増加したため
- 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化したため
- 危険物の取扱が増加したため

エラー箇所が赤色に反転された例です

留意する所 全角1000文字以内

特になし。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

適切であった  適切でなかった

【エラー】総合的所見の当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたかを入力してください。

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい。全角127文字以内。

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

今後も是非活用したい ◎ 活用を検討したい  場合によっては活用することもある  技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内

【エラー】総合的所見の今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますかの理由を入力してください。

## 活用効果調査表の作成手順

- ①NETISへログイン <https://www.netis.mlit.go.jp/netis/>
- ②登録申請書作成/活用効果調査表作成タブを選択
- ③活用効果調査表作成（評価情報）を選択
- ④WEB活用効果調査表の作成を選択

NETIS 新技術情報提供システム  
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

登録申請書作成 (申請情報)    活用効果調査表作成 (評価情報)    活用効果調査表作成 (評価情報)

事後評価に必要な申請書等です。「公共工事における新技術活用システム」運用マニュアル等を確認して下さい。

WEB活用効果調査表

④ 次の様式が作成できます。

- 新技術活用計画書・実施報告書
- 活用効果調査表（発注者用）
- 活用効果調査表（施工者用）

●活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル(オンライン活用効果調査表作成)」を確認してから行ってください。  
※マニュアルは随時更新されますのでご注意ください。

旧システムで作成した活用効果調査表の内容を修正する場合は、[こちら](#)

旧システム(R4年3月以前)で作成した活用効果調査表の内容を確認・修正する場合は「[こちら](#)」をクリック

(操作が解らない場合下記に問合せを)

技術開発相談室 壹岐(M755-385)田和(487)  
技術開発対策官 濱本(M755-302)  
指導官 蚊口(M755-405)

- ⑤「ログインIDパスワードを新規登録」を選択

NETIS 新技術情報提供システム  
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

活用効果調査表の作成・登録

対象技術 \*\*-\*\*\*\*

ログインID  
パスワード

ログイン キャンセル

⑤ ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから新規登録をお願いします。  
ログインID/パスワードを新規登録

新規登録(対象技術を初めて活用する際は赤枠から。  
ログインID/パスワードを申請済みの場合は青枠部分に入力してログイン。



⑥必要事項を入力の上「申請」を選択

17ページの「活用効果調査表  
作成上での留意点を参照して記  
入して下さい。

NETIS 新技術情報提供システム  
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

ログインID/PW新規登録フォーム  
活用効果調査票の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。  
以下の内容を入力の上送信してください。

⑥

■工事/業務情報

受注者名

組織機関名

部署・事務所名

工事名/業務名

コリンズ/テクリス番号

調査者（施工者）氏名

調査者（施工者）メールアドレス

監督者氏名

監督者メールアドレス

■調査表を作成する新技術のNETIS番号

※調査表を作成する新技術のNETIS番号を1件ずつ入力してください。入力いただいたNETIS番号毎に活用効果調査表の入力フォームが発行されます。  
※NETIS番号は、情報種別記号「-A」「-VE」等を除く形で入力してください。（例：KT-123456）  
※ログインID/PW発行後に調査表を作成する新技術を追加することも可能です。

技術を追加する

新技術のNETIS番号（1技術目）  技術活用提案日

監督職員へ確認メールを送付します。  
確認が取れ次第、ご指定のメールアドレスへID/PWのお知らせメールが届きます。

申請 キャンセル



## 活用効果調査表 記入のポイントについて

VEの場合のタグ表示

A、VRの場合のタグ表示

新技術活用計画書

新技術活用計画書

実施報告書

活用効果調査表（発注者用）

活用効果調査表（施工者用）

### 新技術活用計画書 活用する新技術および発注機関等の記入

①登録番号

②新技術名称

③比較する従来技術

NETIS情報から自動的に入力されます。変更はできません。

④組織機関名

「近畿地方整備局」を選択。

⑤部署・事務所名

発注担当課の「部署・事務所名」を選択。

⑥工事名

新技術を活用する工事（業務）名を記入。

⑦活用等の型

新技術を活用する型を選択。



※④、⑤、⑦はプルダウンより選択して下さい。

※工事名は省略等せずに必ず正確に記入して下さい。

### ＜活用等の型＞

試行申請型（発注者指定）

試行申請型（契約後提案）

試行申請型

発注者指定型

発注者指定型（選択肢提示型）

施工者選定型（総合評価技術提案）

施工者選定型（契約後提案）

フィールド提供型

テーマ設定型（技術公募）

注1) システムのプルダウンでは施工者選定型（総合評価技術提案）となっていますが、これは**施工者選定型（契約前提案）**のことです。


注2) **発注者指定型（選択肢提示型）**は1工事につき1技術のみとされています。特記仕様書の**選択肢リスト**から複数を活用する場合、一つを**発注者指定型（選択肢提示型）**とし、他は**施工者選定型（契約後提案）**としてください。

※活用等の型についてはP21を参照

## 新技術活用計画書 工事等情報の記入

計画書作成段階では工事等情報、活用理由を記入して下さい。

### ①作成日

「ボタン」より、計画書を作成した日を選択。


### ②受注者名

工事(業務)の受注者名を記入。  
ID等を登録した際に入力した情報が反映されます。


### ③契約額(円)

工事(業務)の当初契約額(税込)を記入。(ex:12,800,000)

### ④工事期間

工事(業務)の全体工期を「ボタン」より選択。

### ⑤新技術施工期間

全体工期のうち新技術を活用する期間を「ボタン」より選択

### ⑥施工場所


施工場所の所在地を記入





※「工事期間」「新技術施工期間」は、当初予定から変更があった際は、施工完了後に正確な日付に修正してください。

## 工事等情報

新技術活用計画書・実施報告書 活用効果調査表(施工者用)



計画書記入完了 ※「新技術活用計画書」部分の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。  
※新技術活用計画書部分：で塗りつぶした項目（「作成日」～「施工場所」、活用理由）



実施報告書記入完了 ※「実施報告書」部分の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。  
※実施報告書：で塗りつぶした項目（「施工概要」～「作業環境」）

作成日  ① 

受注者名 株式会社●● ②

契約額(円)  ③

工事期間   ~   ④

新技術施工期間   ~   ⑤

施工場所  ⑥

## 活用理由 ※次ページ参照

活用理由 ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。  
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

経済性

工程

品質・出来形

安全性

施工性

環境

その他 (  )

その他 (  )

# 新技術活用計画書

## 活用理由の記入

- ◎従来技術と比較して、優れると思われる効果についてチェック(☑)を入れてください。
- ◎チェックした項目は、コメント欄を必ず記入してください。
- ◎6項目中、必ず1項目以上の記入が必須となっています。
- ◎6項目以外で活用理由がある場合は、「その他」に記入してください。

**活用理由** ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。  
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

- 経済性
- 工程
- 品質・出来形
- 安全性
- 施工性
- 環境
- その他 ( )
- その他 ( )

〇〇作業がないため、作業日数の短縮が図れる

軽量であるため、安全に施工することができる。

CO2を増やさな

**チェックを忘れない!!**

**チェック項目は、コメント欄を記入**

項目	活用の効果	比較の根拠
経済性	向上 同程度 低下 (-0.64%)	材料は安価だが、調達コンクリート量が増え、経済性は低下する。
工程	短縮 (27.52%) 同程度 増加	ブロックを大型化したことにより、工程が短縮となる。
品質	向上 同程度 低下	プレキャストコンクリート二次製品であり同等。
安全性	向上 同程度 低下	参考質量680kg (A形)、控本数 (3本) と配置により安定するため同等。
施工性	向上 同程度 低下	ブロックの控配置の改良により施工性が向上する。
周辺環境への影響	向上 同程度 低下	ブロックの表面意匠は大きさの異なるランダムな模様。平均明度計測結果は6.0、テクスチャー計測結果は11で、総合的に同等。
その他、技術のアピールポイント等	向上 同程度 低下	従来は、ブロックの控がブロック背面中心にあり、スキヤクレーンを用いなければ高さ調整が行いにくいという課題があったが、新技術では控の本数を増やして外周付近に配置したことで、簡易的に高さを調整することが可能となり、工程の短縮と省力化が図れる。
コストタイプ	向上 同程度 低下	発散型：C(-)型

申請者(新技術の開発者)による、従来技術と比較した新技術活用の効果がNETISに掲載されています。あくまで参考として確認していただき、『**現場の意見として活用する理由**』を記入してください。

## 実施報告書 施工概要の記入

実施報告書(施工概要等)は新技術活用後に記入して下さい。

### ①内容

新技術を活用した**工事の概要**を記入。

### ②対象数量

新技術の**工種の数量**を記入。  
(単位は、NETIS掲載情報に合わせる)

### ③新技術使用箇所

対象数量のうち、新技術を使用した箇所を記入。

### ④現場施工条件

新技術を活用した現場条件を記入。  
(騒音有無や夜間施工等)

### ⑤障害

施工上での重大な障害・問題の有無を選択。「有」の場合は、  
障害の内容を記入。

### ⑥作業環境

新技術を活用した作業環境を選択。

施工概要 内容 全角1000文字以内。

① 例)舗装工7,000m<sup>2</sup>、道路改良L=1,000m  
工種(業務)全体の内容が分かるよう、主要工種のみ記入

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補  
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

対象数量 全角127文字以内。

② 例)△△橋 橋梁塗装工3,000m<sup>2</sup>、足場工1,500m<sup>2</sup>

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補  
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

新技術使用箇所 全角127文字以内。

③ 例)△△橋 P3橋脚 足場工1,000m<sup>2</sup>

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補  
誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

施工(活用)概要資料 ※活用概要データを添付してください。  
 ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または  
 ファイルの選択 ファイルが選択できません

特に資料を添付する必要はありません

※ファイルは30MBまでのものとしてください。  
 現場施工条件 全角1000文字以内。

④

●現場条件 ●周辺状況(病院、学校、鉄塔の有無等) ●自然環境(騒音、振動、水質等)

例)山間部 例)半径50m以内に学校あり 例)特になし

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補 誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補 誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補  
 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

障害 施工上で重大な障害や問題が生じたか。  
 無  有  チェックを外す

⑤

障害の内容 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補  
 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

作業環境  陸上作業  水上作業  地下作業  水中作業  高所作業  チェックを外す

⑥

# 活用効果調査表

活用効果調査表(施工者用)(発注者用)は新技術活用後に記入して下さい。

## ①評価者

記入者(発注者・施工者)によって、画面表示タブが異なります。

## ②連絡先等

評価者に関する情報を記入。

### 【施工者用】

※ 連絡先(TEL): 工事完了後も連絡できる固定電話番号を記入。

### 【発注者用】

※ 発注課: 発注担当課名を記入。

※ 記入者氏名: 主任監督員、主任調査員等の役職と氏名を記入。

※ 連絡先(TEL): 固定電話番号を記入。

## ③効果調査

従来技術と比較し、新技術を活用した際の6項目(経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境)について効果の内容を記入。

※ 効果調査: 従来技術と比較しての優劣等評価点をチェック。

※ 優れていた点、劣っていた点: 該当する項目をチェック。

該当する項目がない場合はコメント欄に優れている点、あるいは劣っていた点を必ず記入。

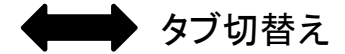
※ コメント: 所見として「効果調査」「優れていた点」あるいは「劣っていた点」の理由を記入。また、「当該技術に関連しない項目」とした場合、その理由を必ず記入。

**⚠ 記入漏れや評価に矛盾がないよう発注者は必ずチェックしてください。また、施工者の評価と発注者の評価が大きく異なることがないよう評価に当たっては施工者と発注者の間で十分調整を図ってください。**

## ① 施工者用

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(発注者用) 活用効果調査表(施工者用)

発注者用



新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(発注者用) 活用効果調査表(施工者用)

## ② 施工者用

会社名(所属) 株式会社 ○○建設

記入者氏名 近畿 次郎

連絡先(TEL) 1234-56-7890

## 発注者用

発注課 ●●●●課

記入者氏名 主任監督員 建設太郎

連絡先(TEL) 098-7654-3210

## ③

経済性 効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input checked="" type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5

当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

自動で音声誘導されるため、歩行者等が比較的少ないなど交通誘導員を配置するまでもない場所でも有効に活用できた。

優れていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数量より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数量より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

評価内容に矛盾がないように整合を図ってください

例えば、効果調査は「4」(従来技術より優れる)をチェックしているのに「劣っていた点」をチェックしている等

## 活用効果調査表 総合的所見

### ①優れていた所

従来技術と比較して、優れていた点を記入。

### ②劣っていた所

従来技術と比較して、劣っていた点を記入。

### ③留意する所

新技術を活用する際に、特に留意すべき点を記入。

### ④アンケート項目

該当する項目を選択し、回答。

### ⑤従来技術名

比較する従来技術が適切でなかった場合、比較すべき従来技術を記入。

### ⑥今後の当該技術活用の理由

アンケートにて項目を選択した理由を記入。

### ⑦改善点・要望・その他

改善点等がある場合は、自由に記入。

総合的所見

NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

優れていた所 全角1000文字以内。

①

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

劣っていた所 全角1000文字以内。

②

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

留意する所 全角1000文字以内。

③

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

④  適切であった  適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

⑤

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

今後も是非活用したい  活用を検討したい  場合によっては活用することもある  技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

⑥

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

⑦

誤字チェック 凡例：チェック対象文字、修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します



## 活用効果調査表 施工状況等の写真

- ◎ **施工者のみが作成**します。発注者による作成は不要です。
- ◎ 当該技術に関連した写真を、「**施工前**」「**施工中**」「**施工後**」など各段階において添付してください。
- ◎ 写真ファイルは、2MB(300×200pixel)程度のGIF形式またはJPEG形式としてください。
- ◎ **写真タイトルの記入漏れ**が多くみられます。**必ず記入**してください。

### 写真添付必須

※新技術を活用している状況が分かる写真を添付  
(全景・近景・施工前・施工中・施工後等)

※ソフトウェアなど施工写真がない場合は、利用状況やモニタ画面などの写真を添付

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式としてください。

写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルの選択 RIMG0801.jpg

削除

登録済み写真名:



※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

トレスロック

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルの選択 RIMG0802.jpg

削除

登録済み写真名:



※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

据付中

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルの選択 RIMG0803.jpg

削除

登録済み写真名:



※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

施工完了

### 写真タイトル記入必須

※記入漏れが多いため、必ず記入してください。

## 活用効果調査表作成上での留意点

近畿技術事務所HP 「NETISについて」より抜粋

[https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/tech/netis/new\\_flow2023.html](https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/tech/netis/new_flow2023.html)

### ⑤活用効果調査について

The screenshot shows the NETIS login page with the following fields and annotations:

- 部署・事務所名**: A dropdown menu. Annotation: 部署・事務所名を選択時に「管理支所」のついていない「事務所」を選択してください
- 工事名/業務名**: A text input field. Annotation: コリズ番号は10桁の数字です。設計書番号ではありません。
- 担当者(施工者)氏名**: A text input field. Annotation: 担当職員と事前に打ち合わせの上で担当職員の氏名とメールアドレスを入力してください。
- 担当者(施工者)メールアドレス**: A text input field. Annotation: 担当職員と事前に打ち合わせの上で担当職員の氏名とメールアドレスを入力してください。
- 活用技術の追加ボタン**: A blue button. Annotation: 活用技術の追加ボタン 活用取り止めの場合は削除すること
- 技術活用提案日**: A date selection field. Annotation: 技術提案日は記入必須です。1技術毎に必要になります。(技術提案日は工事開始日でも可)
- 新技術のNETIS番号(1技術目)**: A text input field. Annotation: -A,-VR,-VEは記入不要 (KT-123456等と入力する) ※アルファベットは半角大文字のみ

2023年度より活用効果調査表は「工事IID」となりました。  
こちらは「ログインIDパスワードを新規登録」を押下した場合の表示です。

活用技術が複数ある場合は「技術を追加する」ボタンで追加することができます。

## ⑤活用効果調査について

新技術活用計画書  
(活用する新技術がA,VRの場合)

提出時に記入されているか確認

クリックでタブ切替え

提出時に✓されているか確認

拡大図

コメント欄は  
監督職員と  
テキストで  
やり取りする  
場合に使用

10

## ⑤活用効果調査について

新技術活用計画書  
(活用する新技術がVEの場合)

VEの新技術は  
「新技術活用計画書」  
のみ表示

※施工中にVEに変わった場合も  
「新技術活用計画書」のみ提出

VEなのに「実施報告書」  
「活用効果調査表（施工者用）」  
が表示されている場合は  
近畿技術事務所 技術開発相談室まで  
連絡してください

The screenshot shows a web form with several sections. Red boxes and text highlight key areas:

- Submission Confirmation:** A red box around the '提出時に記入されているか確認' (Check if entered at submission) label points to the '提出済' (Submitted) status indicator.
- Checkmark Confirmation:** A red box around the '提出時に✓されているか確認' (Check if checked at submission) label points to the '入力済' (Entered) status indicator.
- Comment Field:** A large red box highlights the 'コメント欄' (Comment field), with text indicating it is for use by supervisors and for text-based exchanges.

The form includes fields for '新技術活用計画書' (New Technology Utilization Plan Book), '新技術活用計画書' (New Technology Utilization Plan Book), '新技術活用計画書' (New Technology Utilization Plan Book), and '新技術活用計画書' (New Technology Utilization Plan Book).

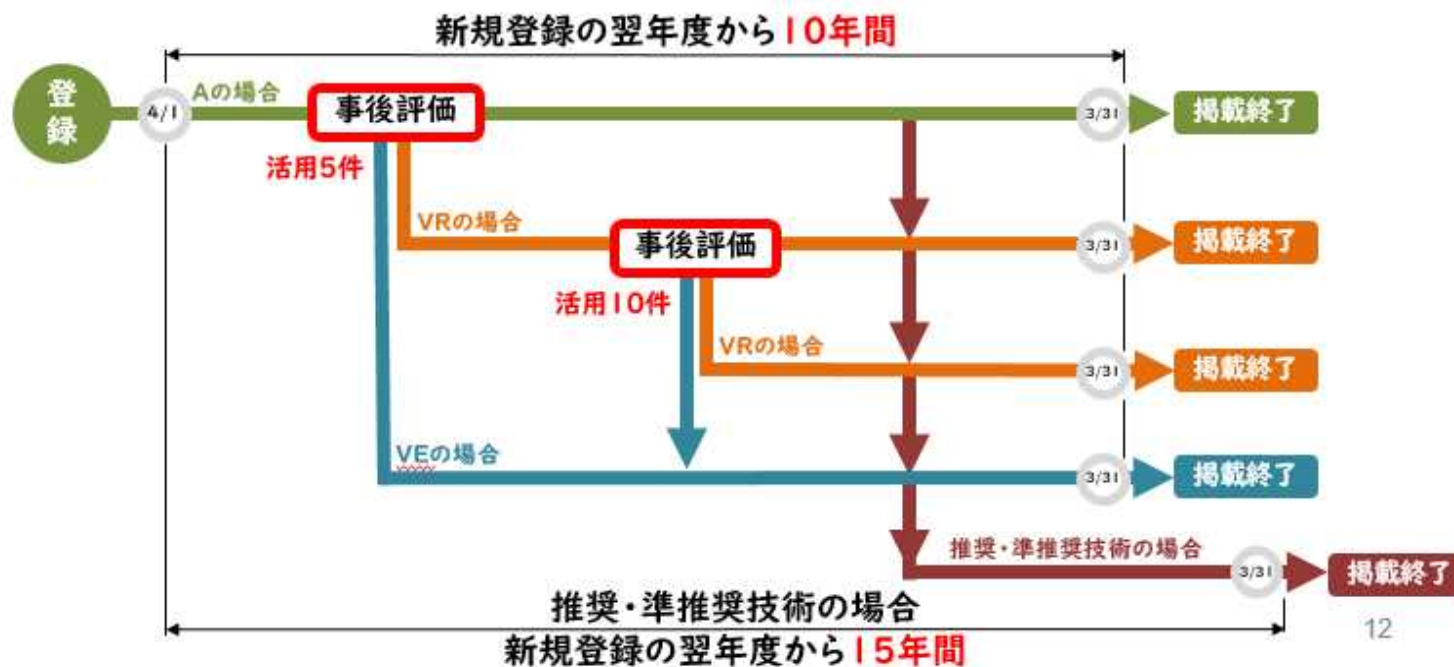
## ⑥NETISの掲載期間について：登録の翌年度から10年間

参 考

NETISの掲載期間は、NETISに登録した翌年度から10年間です。

掲載期間中に、「推奨技術、準推奨技術」に選定された場合、15年間の掲載期間となります。

A (未評価技術)	掲載は登録した翌年度から10年間 (活用効果調査表5件で事後評価対象)
VR (継続調査等の対象技術)	掲載は登録した翌年度から10年間 (評価後、活用効果調査表10件で次の事後評価対象)
VE (継続調査不要の技術)	掲載は登録した翌年度から10年間 (評価後、事後評価を行わない)



12

# ○新技術活用システムの6つの活用形式

参 考

①施工者選定型

◆施工者から契約前及び契約後に提案される型

②発注者指定型

◆発注者が具体的に技術を指定して活用する型

②発注者指定型  
(選択肢提示型)

◆設計図書にテーマと複数の新技術を提示し、  
契約後、施工者が新技術を選択する型

③試行申請型

◆開発者の申請により現場で確認する型

④フィールド提供型

◆ニーズに基づき、新技術の具体のフィールドを想定して募集し活用する型

⑤テーマ設定型  
(技術公募)

◆ニーズに基づき、新技術の技術テーマを設定して募集し活用する型

## NETIS掲載技術の分類

### ● 活用効果調査が**必要な技術**

#### ■ NETIS番号の後ろに“-A”が付与されている技術【事後評価未実施技術】

- ・ 技術申請者が作成した新技術情報のみの技術。
  - ・ 「技術審査証明書」等がないものについては技術の成立性が確認されていない。
- ※NETIS「申請情報」は整備局がその内容について保証するものではありませんので、使用する場合は申請者に確認が必要です。

#### ■ NETIS番号の後ろに“-VR”が付与されている技術

- ・ 国土交通省が活用前・後に評価した「評価情報」がある技術のうち、技術特性や重要度に応じ、活用効果調査及び評価を継続する必要があると選定した技術。

### ● 活用効果調査が**不要な技術**

#### ■ NETIS番号の後ろに“-VE”が付与されている技術

- ・ 国土交通省が活用前・後に評価した「評価情報」がある技術のうち、活用効果調査及び評価を継続する必要がないと選定した技術。

## NETIS掲載技術の分類(有用な新技術)

機密2  国土交通省

### 活用促進技術

各地方整備局等の新技術活用評価会議が、優れた技術の活用促進を図るため、「活用促進技術」を指定します。

活用促進技術は、活用効果評価において総合的に活用の効果が優れている技術、特定の性能又は機能が特に優れている技術、特定の地域のみで普及しており全国に普及することが有益と判断される技術等に該当する技術から選考されます。

### 推奨技術

国土交通本省の新技術活用システム検討会議が、公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために、

### 準推奨技術

画期的な新技術を対象に「推奨技術」あるいは「準推奨技術」として選定します。

### 評価促進技術

他機関等の実績に基づき、公共工事等に関する技術水準等を高めることが見込める技術については「評価促進技術」に位置づけられます。